
【上海レポート20220606】

大阪産業局上海代表処/大阪府上海事務所 所長 南浦秀史

【上海市における封鎖状況13(最終回)】

5月30日(月曜日)17時55分、携帯電話アプリでの上海市公式発表において、6月1日0時より、住宅小区の出入り回復、公共交通機関の運航再開、自家用車の通行再開(=封鎖解除)が発表されました。これで、黄浦江を挟んで東側の浦東地区は3月28日から、西側の浦西地区は4月1日から続いた都市封鎖は、実質上解除されることになりました。

とは言っても、6日まで公共交通機関は間引き運転、またしばらくの間、商店は入場者に制限を設けての再開、飲食店は店内飲食禁止なので、本来の姿に戻るには少し時間がかかりそうです。

公共交通機関を利用したり公共の場所に出入りしたりするには、72時間以内に受けたPCR検査陰性証明が必要です。街のあちこちに検査所が設けられ、アプリで場所、開業日や混雑状況が確認できます。市政府は6月中の検査費用を無料にすることを発表しました。

封鎖最終日の5月31日、マンションの棟ごとに設置された住民のWeChatグループで居民委員会からの情報伝達の中継ぎや配給品を団地の入り口から棟の入り口まで運んでくれたり、抗原検査キットを各戸に配布してくれたりしたひとりのボランティア(同じ棟の住民)に多くの住民が感謝の言葉を送りました。年配の黙々と仕事をこなす方で、決して偉そうにすることもなく、時にはユーモアを交えながら、生活リズムの崩れた若者を検査に引っ張ってきたり、言葉の不自由な日本人住民に配慮してくれたりと献身的に役割を担ってくださっていました。

2か月という長期間に及んだ封鎖についてはその是非が問われています。周りの中国人の中でもいろんな意見があります。日本では過激に政府関係者や警察に抗議する住民の姿が報道されたりしているようですが、私の周囲ではそのようなことは一切なく、住民が協力して困難に立ち向かっていた印象です。一日の感染者のピークは4月13日の27,719人でしたが、封鎖最終日の5月31日には15人にまで減少しました。新型コロナ感染症の封じ込めという意味では、大きな意義がありました。しかし、封鎖により制限された生活を余儀なくされた私たちひとり一人がこの2ヶ月に意義を見出すには、この2ヶ月をどう過ごし、今後、どう過ごすのかにかかっているように思います。

今回のレポートで封鎖状況についての報告を終了します。しばらくは、余韻に浸るようなレポートが続くと思いますが、それだけ多方面に大きな影響を与えているものとしてご理解ください。

過去の「上海レポート」、「中国(上海)ビジネスサポート」

https://www.obda.or.jp/jigybo/overseas_shanghai.html

発行・問合せ：(公財)大阪産業局上海代表処(大阪府上海事務所)

URL: <http://osaka-sh.com.cn/> E-mail: osaka@ibo-sh.com